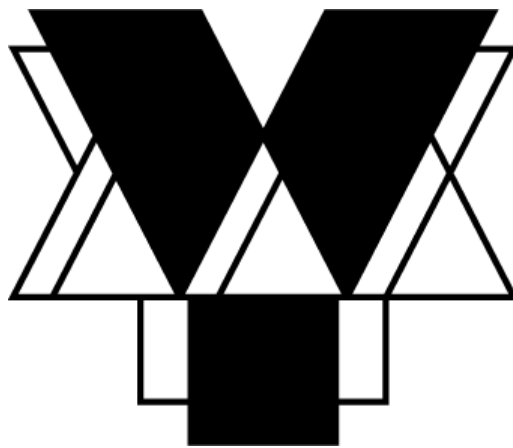


平成30年度

事業計画書



2018年（平成30年）3月

公益財団法人 横浜市体育協会

【 目 次 】

| | |
|---|----|
| I 事業方針 | 1 |
| II 事業計画 | 1 |
| 1 競技スポーツの推進事業【定款第4条第1項第1号、第4号】..... | 1 |
| 2 生涯スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】..... | 3 |
| 3 健康・体力づくり事業【定款第4条第1項第1号、第3号】..... | 5 |
| 4 障害者スポーツ等支援事業【定款第4条第1項第5号】..... | 6 |
| 5 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】..... | 7 |
| 6 スポーツ情報の収集・提供/調査研究【定款第4条第1項第2号】..... | 8 |
| 7 スポーツ施設運営事業【定款第4条第1項第5号】..... | 9 |
| 8 スポーツ団体等育成事業【定款第4条第1項第1号】..... | 14 |
| 9 協会運営事業【定款第4条第1項第6号】..... | 14 |

I 事業方針

～ 挑戦と変革に向けて一步踏み出す一年に ～

平成 30 年度は、第 4 期中期計画において掲げたテーマ『チャレンジ&チェンジ』を念頭に、刻々と変化する社会的環境に柔軟に対応し、新たな事業に果敢に挑戦していく元年といたします。

地域や加盟団体などとの協働をより一層密にして、各種スポーツ大会やイベントなどを実施することに加え、「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」や「横浜マラソン 2018」などの大規模スポーツイベントなども開催することで、多くの市民の皆様が継続的にスポーツに親しむことができる機会を創出してまいります。

また、障害者をはじめ、子どもから高齢者に至るまで、市民の皆様の健康的な生活をサポートしていくために、ニーズに則した各種事業を展開いたします。

スポーツセンターなどの指定管理施設は、現行の指定管理期間の 3 年目を迎えます。また、当協会の自主運営施設である神奈川スケートリンク（愛称「横浜銀行アイスアリーナ」）は、平成 27 年度にリニューアルオープンをしてから 2 年強経過いたしました。いずれの施設も、より多くの市民の皆様にご満足していただけるよう、職員一同、運営面での更なる努力と創意工夫をしてまいります。

2019 年には「ラグビーワールドカップ 2019TM」、そして 1 年後の 2020 年には「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」がそれぞれ開催され、当協会が管理する日産スタジアムが会場となり、世界から注目されることとなります。長らくの運営経験を通じて蓄積した会場管理者としてのノウハウを駆使し、両大会の成功に向け、着実に準備を進めるとともに、各大会の機運醸成のためのイベント事業等も開催していきます。

そして、これらの各事業を展開するにあたっては、安全配慮とコンプライアンス意識をしっかりと持つことと併せて、全職員にとって働きやすい健全な組織運営を実現していくことは言うまでもありません。

当協会の理念である「いつまでもスポーツが楽しめる 明るく豊かな社会の実現」を達成するために、加盟する 74 の競技団体、学校団体、地域団体及び体育団体の皆様と力を合わせ、横浜のスポーツの更なる発展に向けて、全力を尽くしてまいります。

II 事業計画

1 競技スポーツの推進事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 4 号】

(1) 競技スポーツ助成事業

加盟競技団体や加盟地域団体等が主管する各競技会・大会等の活動に対して必要な支援・助成を行い、市民が競技スポーツを始めるきっかけづくりと、継続への取組を行います。

ア 第 15 回都市間交流スポーツ大会

開 催 地：京都市

実技競技数：13 競技

参加予定人数：300 人

イ 市民体育大会

実技競技数：35 競技

参加予定人数：35,000 人

ウ 市民マスターズスポーツ大会

実技競技数：28 競技

参加予定人数：9,000 人

エ 各区交流スポーツ大会

実技競技数：8 競技

参加予定人数：1,800 人

オ 合同強化練習事業

実施事業数：17 競技

参加予定人数：1,800 人

カ ジュニア陸上競技教室

陸上競技の普及・啓発を図ることを目的に、小学生から高校生を対象に、参加者のレベルに合った種目別の練習により、楽しさを理解してもらえるような教室を実施します。

参加予定人数：2,500 人

(2)各種スポーツ競技大会支援事業

競技会・大会の開催を円滑に行うため、大会運営組織への参画等を通して支援活動を行います。

ア 2018 世界トライアスロンシリーズ(WTS)横浜大会(2018 世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会)

トライアスロン・パラトライアスロン最高峰の国際大会

横浜・山下公園をスタート、フィニッシュにした特設コース

① エリートパラの部(トップアスリートの大会)

開 催 日：平成 30 年 5 月 12 日 (土) 開催予定

参加予定人数：70 人

② エリート部の部(トップアスリートの大会)

開 催 日：平成 30 年 5 月 12 日 (土) 開催予定

参加予定人数：110 人

③ エイジの部(一般参加の大会)

開 催 日：平成 30 年 5 月 13 日 (日) 開催予定

参加予定人数：1,640 人

イ 第9回横浜シーサイドトライアスロン大会(横浜シーサイドトライアスロン大会実行委員会)

開催日：平成30年9月30日(日) 開催予定

会場：横浜・八景島シーパラダイス、金沢工業団地周辺コース

参加予定人数：1,000人

ウ 横浜マラソン2018(横浜マラソン組織委員会)

開催日：平成30年10月28日(日) 開催予定

種目：フルマラソンほか

会場：パシフィコ横浜をスタート・フィニッシュの会場とし、市内中心部の観光名所や横浜港の風景を楽しめる横浜ならではのコース

参加予定人数：28,000人

(3)スポーツ大会派遣事業

競技会・大会への選手派遣、選手選考に必要な支援・助成をします。

ア 第73回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会

開催日：平成31年2月 開催予定

会場：秦野～相模湖

参加予定人数：横浜市選手団20人、横浜市走路員20人

イ 全国健康福祉祭大会(ねんりんピック)参加選手選考

開催日：平成30年4月実施予定

実施競技種目：9競技

参加予定人数：700人

(4)競技選手の個別支援

国体参加選手をはじめ、競技選手に対するメディカルチェック、SPS(スポーツ版人間ドック)・体力測定・スキルチェック、スポーツによる障害の治療、リハビリテーション、予防等を行い、競技スポーツの推進を図ります。

| 項目 | 目標数 |
|-----------------|---------|
| SPS(スポーツ版人間ドック) | 2,940人 |
| 体力測定等(アスリート事業) | 4,500人 |
| 外来・リハビリテーション | 87,900人 |

2 生涯スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】

(1)地域スポーツ連携事業の実施

ア 区体育協会等の地域団体との連携

日頃から区民に密着した活動を行っている区体育協会と連携して、各区のスポーツ振興を支援します。また、スポーツ推進委員や地域のさまざまなスポーツ関連団体などとも連携し、スポーツ活動の活性化に寄与します。

イ 総合型地域スポーツクラブ育成支援事業

さまざまな世代の方々が、身近な地域で気軽にいろいろなスポーツが楽しめる環境づくりを目指し、「総合型地域スポーツクラブ」を育成・支援します。

参加予定人数：486,000人

ウ ヨコハマさわやかスポーツの普及

市民一人ひとりが体力や興味に応じてスポーツ活動を楽しみ、健康体力づくりの維持増進を図っていくために、いつでも気軽にできるさわやかスポーツの普及・振興をすすめます。また、障害の有無等に関わらずすべての人々が分け隔てなくスポーツに親しむことができるように、新たにパラリンピック種目である「ボッチャ」を取り入れます。

参加予定人数：280,000人

エ 横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催

10月の体育の日を中心に、各区スポーツセンター、市内野外活動施設及び大規模施設等において、市民が気軽に各種スポーツに参加できる「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2018」を開催します。

会場：市内37か所

参加予定人数：65,000人

(2)スポーツイベントの実施

スポーツの普及振興を図るため、各種スポーツイベントを開催します。

ア ダンスフィットネスヨコハマ

開催日：平成30年5月5日（土）

会場：パシフィコ横浜国立大ホール

参加予定人数：6,000人

イ YOKOHAMA ビーチスポーツフェスタ

開催日：平成30年7月28日（土）、29日（日）、8月4日（土）、5日（日）

種目：ビーチバレー、ビーチサッカー、ビーチハンドボール、ビーチテニス

会場：海の公園ビーチ（横浜市金沢区）

参加予定人数：8,000人

ウ オータムスポーツフェスタ 秋のスポーツ体験会(仮称)【新規】

開催日：平成30年9月

内容：横浜のみなとみらい地区を会場として、健康づくりのきっかけとなるウォークや横浜ならではの様々なスポーツイベントを開催します。

参加予定人数：1,000人

エ よこはまシティウォーク

開催日：平成31年3月21日（木・祝）

種 目：ウォーキング（5km・10km・20km・30km コース）
スタート及びゴール：みなとみらい線馬車道駅
参加予定人数：3,100人

3 健康・体力づくり事業【定款第4条第1項第1号、第3号】

(1)子どもの体力向上事業

地域のスポーツ団体やボランティア等と協力し、学校などの身近な場所で子どもの体力向上支援事業を実施します。

ア 子どもの体力向上支援

体を動かす楽しさを知ること、次世代を担う子ども達が心身ともに健全に発達し、生涯を通じてスポーツに親しめるきっかけづくりとなるよう、児童向けの子どもの体力向上につながる事業を幅広く実施します。

参加予定人数：75,400人

イ はつらつキンダー事業

運動・遊びを通して、幼児期に何事にも積極的に取り組む意欲と、豊かな人間性を育むことを目的とし、生涯にわたって運動・スポーツを楽しむきっかけづくりとします。

参加予定人数：5,000人

ウ スポーツ少年団

市内のスポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化をすすめながら、スポーツを通じた青少年の心身の健全な育成と、生涯スポーツの普及・振興を図ります。

参加予定人数：627人

エ よこはまこどもマリンスクール

やさしく、強い“はまっ子”を育てることを目的として、横浜市内在住、在学の小学4～6年生を対象に、帆船日本丸や南伊豆臨海学園などの海に隣接する施設を活用し、1年間を通して水泳・カッター操船などの実技、集団生活を通じた自主性・協調性の養成など心身の鍛練を行います。

参加予定人数：176人

オ 学校支援事業

当協会加盟競技団体やプロスポーツチーム、オリンピック・パラリンピアン等との連携・協力により、児童・生徒のスポーツ活動を支援します。

参加予定人数：2,500人

(2)健康づくり支援事業

健康寿命の延伸に寄与する事を目的に身近な地域でのスポーツ・健康づくりができる環境を整備するため、以下の事業を実施します。

ア 健康づくり派遣指導事業

「地域における健康づくり」をキーワードに、①日常的な運動習慣を習得できるプログラムの提供、②地域と協働した健康づくりを主軸として、地域に根差した指導をすすめます。また、横浜市健康福祉局からの介護予防関連事業や横浜市老人クラブ連合会のシニアの祭典事業協力等を積極的に受けることで、市民の健康づくりに寄与します。

参加予定人数：23,000 人

イ 健康づくり販売事業

市民における運動・スポーツの日常化を目的に、はまちゃん体操関連商品（CD・テキスト）や介護予防テキスト・ひばりエクササイズ（DVD）のPR・販売を行います。

ウ 健康づくりプログラム開発事業

当協会の管理運営施設や、区役所、地域施設、地域団体等が主催する「スポーツ事業」「健康づくり事業」に活用できるような運動プログラムを開発し、運用します。

参加予定人数：300 人

4 障害者スポーツ等支援事業【定款第4条第1項第5号】

(1) 横浜こどもスポーツ基金活用事業

ア 助成金の交付

障害のある子ども達の、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、スポーツ観戦を通してスポーツへの関心を高める活動、障害者スポーツアスリートやジュニアアスリートを目指す選手育成の活動、定期的にスポーツ活動に親しめる環境づくりやその活動を支援する人材の育成活動などを実施する、個人や団体に対して、助成金を交付します。

イ 障害者アスリートの発掘と育成

障害者アスリートの発掘・育成の方法を検討し、実践していきます。障害者関係団体や学校とアスリート情報体制の連携や、指導者や医師などの専門スタッフの確保を行い、発掘から育成まで通じた専門的サポートができる体制づくりを目指し、今後活躍が期待できるジュニアの障害者アスリートの活動を支援します。

ウ 誰もがスポーツを継続的にできる場の確保

特別支援学校や公共の施設を中心に、障害の有る無しにかかわらず、誰もがスポーツ活動に取り組める場を創出します。

さらに、障害者スポーツに必要な器具や用具、備品の貸与や購入、利用しやすい施設づくりをすすめ活動場所の充実を図ります。

エ PR 活動の実践

横浜こどもスポーツ基金の認知度を高めるために、子どもの未来に最も敏感な30歳代から40歳代という、子どもを持つ親世代をメインターゲットにPR活動を進めます。

(2)障害者スポーツ団体等との連携強化

ア みんなのスポーツ事業

ヨコハマさわやかスポーツ普及委員会及び総合型地域スポーツクラブ等の地域で活動している団体と連携し、障害者と健常者が身近な地域で共にスポーツに親しむことができる取組を支援します。

また、障害者スポーツの普及・啓発イベントを開催し、スポーツを通じて市民の障害者への理解を深めます。

参加予定人数：200人

イ 他団体との連携事業

横浜ラポール・横浜ゆるスポーツ協会など関係機関・団体と連携・協力し、スポーツ事業の実施や自主的活動の支援をすすめ、障害者スポーツの推進を図ります。

5 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】

(1)地域スポーツ指導者養成事業の実施

ア 横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座の開催

スポーツ及びレクリエーションなどの活動を通じて市民の健康・体力づくりを支援するため、さまざまな講座を開催して地域に根差した指導者を育成します（5講座）。また、各養成講座修了者が登録する「横浜市スポーツ人材活用システム」登録者の指導技術向上のための研修を年4回（12講座）実施します。

| 講習会名 | 実施期間 | 会場 | 参加予定人数 |
|-------------------------------------|--------|--------------|--------|
| 健康・体力づくりインストラクター養成講座 | 6月～10月 | スポーツ医科学センター他 | 40人 |
| 地域クラブアシスタントマネージャー養成講座 (日本体育協会公認) | 7月～8月 | スポーツ医科学センター他 | 30人 |
| アウトドアリーダー(野外活動指導者)養成講座 | 5月～11月 | 市内野外活動センター他 | 30人 |
| レクリエーションインストラクター養成講座 | 6月～10月 | 当協会地下会議室他 | 25人 |
| スポーツリーダー養成講座(日本体育協会公認) | 6月 | スポーツ医科学センター | 100人 |
| スポーツ人材活用システム登録者研修 | 7月～2月 | スポーツ医科学センター他 | 30人 |

イ 協会認定指導者育成講座の開催

横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座を修了した地域指導者やすでに地域で活躍している指導者のレベルアップを図る目的で、育成講座を開催します。講座に参加された地域指導者は当協会において認定し、さらなる活躍を目指します。

- ・横浜姿勢歩行運動指導員
- ・介護予防運動指導員 等

参加予定人数：170人

ウ 地域スポーツ指導者の活動促進

地域における多様なスポーツ活動や、健康の維持増進事業、高齢者の介護予防事業、子どもの体力向上事業など、当協会が行う各種事業に「横浜市スポーツ人材活用システム」登録者を指導者として積極的に登用し、活躍・活動の場を促進します。

(2)指導者技術向上補助事業の実施

競技スポーツの指導・競技・審判技術などの向上を目的に、当協会加盟の種目団体が開催する研修会等に、経費の一部を助成します。

参加予定人数：950人

(3)ジュニアスポーツ指導者の養成

ア 横浜市ジュニア競技力向上事業

ジュニアスポーツ選手の養成のための強化練習やスポーツ医学に基づくプログラムの作成を行います。また、競技指導者の能力向上を図るためスポーツ医学の知識を備えたジュニアスポーツ指導者の養成を図ります。

参加予定人数：1,800人

イ 未来のスポーツリーダー養成事業

将来のスポーツ界を担う人材を育成するため、スポーツ障害予防やスポーツ栄養学などの講義を行います。

参加予定人数：80人

(4)横浜市スポーツボランティアセンター

本市では、毎年開催されている「横浜マラソン」や「世界トライアスロンシリーズ(WTS)横浜大会」に加えて、2019年の「ラグビーワールドカップ2019™」の開催、2020年には「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されるなど、横浜を会場とした多くの大規模スポーツイベントが行われます。

『横浜市スポーツボランティアセンター』では、これらの市内で開催されるスポーツイベントのボランティア情報の提供や、ボランティアのスキルアップにつながる研修会を行うなど、市民が積極的・自発的にスポーツに関われる体制作りやその支援を行っていきます。

登録予定人数：3,500人

6 スポーツ情報の収集・提供/調査研究【定款第4条第1項第2号】

(1)スポーツ情報の収集・提供

ア スポーツ情報センターの運営

横浜のスポーツ情報全般の収集と提供を、窓口・電話・インターネット等を通じて積極的に行います。

また、市内のスポーツ情報の発信拠点として、「する」「みる」「ささえる」すべての人によって有益な情報を集約し、適宜発信することで、スポーツへの関心や実施率を高め、健康な市民生活を支援します。

イ スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営・拡充

スポーツ情報サイト「ハマスポ」により、横浜市内の最新のスポーツ・レクリエーション情報を幅広く収集・掲載・提供します。

ウ スポーツ情報誌「SPORTSよこはま」の発行

生涯スポーツの普及・振興や横浜に拠点を置くプロスポーツチームの応援、市民の健康づくりの普及・振興を図るため、「横浜」と「スポーツ・健康」をキーワードとし、スポーツへの興味・関心の喚起や健康意識の向上につながる情報を発信します。また、横浜の推奨するスポーツ施策を紹介し、それを担う横浜市体育協会の各種事業を積極的にPRします。

発行：隔月6回（1号あたり30,000部、16ページ）

◆掲載内容

時節や流行に則した特集記事の掲載、市内プロスポーツチームの選手や関連イベントの紹介
スポーツ医科学センターによる健康関連情報の掲載、著名人のインタビュー、
地域スポーツ活動や生涯スポーツへの取り組みの紹介、市体協関連イベントの紹介や報告 等

(2)スポーツに関する調査研究

市民スポーツ意識調査等のスポーツに関係した調査・研究を通じ、横浜市スポーツ推進計画等で掲げられている、運動・スポーツの実施率や取組等について、横浜市における現状を把握します。

また、市民の運動・スポーツに対する様々なニーズや行動・意識を考察し、その結果を当協会が取り組む各種事業に反映させます。

(3)スポーツ医科学に関する情報の収集・提供及び調査研究

スポーツ医科学に関する情報の収集を行い「スポーツ医科学センターホームページ」「ハマスポ」、「SPORTSよこはま」を通じ市民の皆様に発信していきます。

また、横浜市スポーツ医科学センターでは、ホームページや学会等を通じて、スポーツ障害と予防等の研究及び研究の成果を発表し、多くの市民の方々が安全で効果的にスポーツ活動を行えるよう情報発信していきます。

7 スポーツ施設運営事業【定款第4条第1項第5号】

(1)スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる場の提供

以下の施設の安全・安心な管理・運営を通して、市民にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる場を提供します。

ア 指定管理施設の管理運営

○横浜市スポーツセンター（16施設）

- ・横浜市鶴見スポーツセンター
- ・横浜市西スポーツセンター
- ・横浜市南スポーツセンター
- ・横浜市保土ヶ谷スポーツセンター
- ・横浜市磯子スポーツセンター
- ・横浜市緑スポーツセンター
- ・横浜市戸塚スポーツセンター
- ・横浜市泉スポーツセンター
- ・横浜市神奈川スポーツセンター
- ・横浜市中スポーツセンター
- ・横浜市港南スポーツセンター
- ・横浜市旭スポーツセンター
- ・横浜市金沢スポーツセンター
- ・横浜市都筑スポーツセンター
- ・横浜市栄スポーツセンター
- ・横浜市瀬谷スポーツセンター

○横浜国際プール

○横浜文化体育館

○横浜市平沼記念体育館

○横浜市青少年野外活動センター（3施設）

- ・横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター
- ・横浜市くろがね青少年野外活動センター
- ・横浜市こども自然公園青少年野外活動センター

○横浜市少年自然の家（2施設）

- ・横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園
- ・横浜市少年自然の家赤城林間学園

○新横浜公園/日産スタジアム

○三ツ沢公園

○横浜市スポーツ医科学センター

○横浜市栄公会堂

イ その他のスポーツ施設の管理運営

○横浜プールセンター

○屋内プール（6施設）

- ・旭プール
- ・港南プール
- ・栄プール
- ・保土ヶ谷プール
- ・都筑プール
- ・リネット金沢

○テニスガーデン（3施設）

- ・根岸テニスガーデン
- ・緑テニスガーデン
- ・泉中央テニスガーデン

○横浜市鶴見川漕艇場

○たきがしら会館

○横浜銀行アイスアリーナ

(2) スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる機会の提供

横浜市から指定を受けたスポーツ施設やスポーツ医科学施設及びその他の施設において、誰でも気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる各種プログラムを提供します。

ア 指定管理施設

横浜市スポーツセンター

スポーツセンター16館（港北区及び青葉区を除く）において、区民が身近なところで気軽にスポーツを楽しみ、健康の維持増進に努めることのできるよう、スポーツ・レクリエーション活動を推進します。

横浜国際プール

3年目を迎えた国内最高峰のプロバスケット「Bリーグ」の横浜ビー・コルセアーズのホームゲーム24試合のほか、第94回日本学生選手権水球競技大会（インカレ）、2018 ジャパンパラ水泳競技大会などの大規模大会を予定しています。また、2020年の英国オリンピック・パラリンピック代表選手の事前キャンプ地としての準備をすすめます。そして、プール・アリーナ・テニスコート等では、多種多様なスポーツ・文化教室を開催するなど、スポーツ・レクリエーション活動を推進し、多くの市民に親しまれる施設として、スポーツの振興や健康づくりに貢献する施設運営をすすめます。

横浜文化体育館

卓球国際大会「LION ITTF・ATTU アジアカップ横浜 2018」など各種目協会の国際及び全日本レベルの大会から地域や学校の運動会まで多様なスポーツ大会を開催します。また、各種集会・式典、コンサート等の文化的な催し物も開催し、横浜市のスポーツや文化の振興に寄与する施設運営を目指します。

※新・横浜文化体育館（サブアリーナ）

2020年10月末のサブアリーナオープンに向けて、SPCである(株)YOKOHAMA文体の各企業と調整しながら料金設定や優先利用方法の決定、ホームページの作成等の運営準備をすすめます。

横浜市平沼記念体育館

常設観覧席を264席有し、2018シーズンから日本フットサルリーグディビジョン2（F2リーグ）に加入するY.S.C.C.横浜（横浜スポーツ&カルチャークラブ）のホームコートとして、7試合が行われます。スポーツ大会等の利用促進や市民に親しんでいただける施設運営をすすめます。

横浜市青少年野外活動センター

3施設それぞれの特長を活かした野外活動体験を通じ、青少年の健全育成を推進するだけでなく、子どもから大人までを対象に、利用ニーズにあわせた施設運営を行います。また、防災を共通テーマとした「もしもの体験キャンプ」を各施設で実施します。

横浜市少年自然の家

海や山などの恵まれた自然環境を活かした自然体験プログラムや宿泊体験の場を提供し、集団活動の体験等を通じた青少年の健全育成を図るほか、施設の特性を活かした自主事業の実施やイベントの誘致により、多くのお客様に親しまれる施設運営を行います。

新横浜公園/日産スタジアム等

開場 20 周年を迎えた日産スタジアムでは、これまでの感謝をより多くの方々に届けます。また、市のスポーツ遺産（レガシー）に相応しい施設活用を目指し、国際大会やトップアーティストによるコンサート等の誘致を図ると同時に、公園内の各施設を活用し、地域スポーツの振興や市民の健康・体力づくりの一大拠点としての機能を発揮します。加えて、ラグビーワールドカップ 2019™の決勝戦会場、2020 東京オリンピックサッカー競技会場利用に備えるための諸準備や大規模な改修工事の実施に向けて、横浜市及び両大会組織委員会と緊密に連携を図り、スタジアム利用スケジュール調整等を円滑に行います。

さらに、スポーツのみならず、公園の豊かな自然環境を活かしたイベントを町内会や学校をはじめとする地域の方々との連携により展開します。

○管理施設

- ・日産スタジアム(日本陸上競技連盟公認 第1種公認陸上競技場)
- ・日産フィールド小机(日本陸上競技連盟公認 第3種公認陸上競技場)
- ・日産ウォーターパーク(温水利用型の健康増進施設)
- ・北側園地運動施設(野球場、第1・2運動広場、球技場、投てき練習場、テニスコート)
- ・新横浜公園内無料施設(スケボー広場、インラインスケート広場1・2、バスケットボール広場、壁打ちテニスコート、草地広場、遊具広場)
- ・しんよこフットボールパーク(日本サッカー協会公認人工芝コート)
- ・ドッグラン(登録制)

三ツ沢公園

新横浜公園（日産スタジアム）との一体管理により、Jリーグ等の開催に加え、サッカーやラグビーの国際大会の大会誘致・実施をすすめます。また、市民に身近な歴史ある運動公園として、スポーツを通じて園内の賑わいづくりや四季を感じながら気軽に体を動かすことができる機会の提供と運動施設の利用促進を図ります。指定管理3年目を迎え、多様化する利用ニーズに対応する魅力ある自主事業に積極的に取り組みます。

○管理施設

- ・ニッパツ三ツ沢球技場
- ・三ツ沢陸上競技場(日本陸上競技連盟公認 第2種公認陸上競技場)
- ・三ツ沢補助陸上競技場
- ・馬術練習場

横浜市スポーツ医科学センター

市民の健康づくりの推進・スポーツの振興・競技選手の競技力の向上を目的に、クリニック、アリーナ(体育館)、プール、トレーニングルーム等を併設した施設の運営を行います。

- スポーツプログラムサービス(SPS…スポーツ版人間ドック)
- クリニック(内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科)
- メディカルエクササイズコース(MEC…運動療法)
- トレーニングルーム・25m 室内温水プールの個人利用
- 研修室・会議室、大・小アリーナの貸出事業
- スポーツ教室事業(体操・水泳等)
- 健康教室事業(親子リトミック・太極拳・フラダンス・社交ダンス等)、イベント事業
- アスリート事業(アスリート測定等)

イ その他のスポーツ施設

屋外・屋内プール

安全・安心・快適に利用していただくために、日々の安全管理の徹底に努めるとともに、気軽に参加できる水泳教室やイベントなどを開催し、多くの市民の方々に愛着をもって利用していただける施設運営を行います。

テニスガーデン

テニススクールの開催や貸しコート運営を行い、市民に対してテニスをはじめとするスポーツ活動の場を提供します。

横浜市鶴見川漕艇場

ボート・カヌーの利用、貸出し等の管理運営を行い、初心者等を対象とした教室を開催して水上スポーツ・レクリエーションの普及・振興に寄与します。

たきがしら会館

プロバスケットボールチーム「横浜ビー・コルセアーズ」の練習場としての利用に供するとともに、近隣の地域住民や団体、企業などの利用を促進します。

横浜銀行アイスアリーナ

滑走や教室、発表会やオフィシャルパートナーとの協働企画などの各種事業の開催により、アイススケートを親しむ機会と場を提供するほか、保全計画に基づき施設・設備の管理をすすめ、安全・安心な施設づくりに努めます。

8 スポーツ団体等育成事業【定款第4条第1項第1号】

(1) スポーツ団体育成事業

ア 交流事業

横浜市のスポーツの分野で活躍・功労のあった方々及びスポーツ関係者との交流促進のため、「第53回新春横浜スポーツ人の集い」を開催します。

開催日：平成31年1月25日（金）開催予定

会場：①表彰：会場未定 ②賀詞交換会：横浜文化体育館（予定）

参加予定人数：1,300人

イ スポーツ表彰事業

体育・スポーツの進歩発展及び価値ある研究調査をなした者や各種スポーツ大会において、顕著な成績をおさめた個人・団体やスポーツ振興に寄与した個人を表彰する横浜スポーツ表彰を実施します。また、教育委員会表彰等の各種表彰への推薦を行います。

参加予定人数：300人

ウ 協力町村来浜事業

少年自然の家が設置されている昭和村（群馬県）及び南伊豆町（静岡県）の小学校児童を対象に、横浜への理解を深めてもらうことを目的とした教育施設協力町村児童受入れ事業を実施します。

参加予定人数：156人（2町村での参加者合計数）

エ プロスポーツ支援

横浜市内のプロスポーツ4チームが行うイベントへの協力や広報PRの支援など、各チームとの連携により、市民へのスポーツの普及振興を図る事業を実施します。

9 協会運営事業【定款第4条第1項第6号】

(1) 横浜市との協約

横浜市と共有する協約目標は、協約マネジメントサイクルに沿って、横浜市とともに2018年度からの新たな目標等の設定をすすめます。

(2)危機管理体制の取組

市民が安全・安心・快適に施設を利用できるように、各施設の点検や職員に対する指導・研修を実施し、日常の危機管理体制の基礎を整えます。

また、日産スタジアムや横浜国際プール、横浜文化体育館における大規模イベントの開催にあたっては、特に主催者、関係機関との連携を徹底して危機管理体制を強化します。

(3)社会的責任に対する取組

ア 個人情報保護マネジメントシステム運用業務

プライバシーマーク（Pマーク）付与事業者として、個人情報保護マネジメントシステム（PMS）を引き続き維持・運用し、個人情報の保護を推進します。

イ 内部・外部監査業務

公益認定の条件である、情報開示の適正性を証明するため、また、公益法人会計基準(平成 20 年基準)への対応を正確かつ適正に行うため外部監査業務を専門家に委託して実施するとともに、内部統制機能を高めるため内部監査業務を実施します。

ウ 職員への取り組み

職員一人ひとりが、能力を最大限に発揮し、心身ともに健康でいきいきと働くことができる職場環境の構築を目指し、職員満足度向上、健康増進、人材育成等の活動に取り組みます。

(4)賛助会員事業

協会の理念やそれに基づくさまざま事業を、市民や企業に広くアピールし、その活動に賛同を得ることで、賛助会費や協賛金として自主財源の確保を目指します。

(5)広報PR事業

新聞等の媒体を活用した体育協会のPRや、協会ホームページによる管理運営施設や各種事業の案内、また、ディスクロージャーの観点から事業計画書や事業報告書等、協会が保有する情報の公開に努めます。

(6)専門委員会及び連絡協議会との連携

協会の事業を推進するために必要な専門委員会及び連絡協議会を設置し、加盟団体から選出された委員と連携し、協議・調整・調査及び研究を行います。

ア 専門委員会

- ・ 総務委員会
- ・ 競技委員会
- ・ 市民スポーツ委員会

イ 連絡協議会

- ・加盟団体代表者会議
- ・区体協代表者会議

(7) 創立 90 周年及び創立 100 周年記念事業の準備活動

平成 31(2019)年の創立 90 周年に向けた準備をすすめるとともに、平成 41 (2029)年の創立 100 周年記念事業の準備もあわせてすすめていきます。

(8) 基金の運用

ア ワールドカップ決勝戦開催記念基金の運用

横浜市からの補助金を基に、「2002 F I F A ワールドカップ」決勝戦開催を記念した当基金により整備を行った「みなとみらいスポーツパーク」の施設解体費用として、解体を行う横浜市へ基金の全額を寄附します。

イ 横浜こどもスポーツ基金の運用

寄付を原資として、障害のある子ども、恵まれない環境の子ども達等へ、横浜のスポーツを通じて、支援・援助することを目的に「横浜こどもスポーツ基金」を運用します。また、ホームページによる啓発・事業報告等を実施していきます。

(9) 駐車場の運営

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場と鶴見区馬場に設けた月極駐車場の各運営を行います。得られた収益は、当協会の公益事業を実施する財源として充当します。

加 盟 団 体 一 覧

◆競技団体(52 団体)

| | | |
|-------------------|-----------------|----------------|
| 横浜野球協会 | 横浜市ソフトボール協会 | 横浜市カヌー協会 |
| 横浜野球連盟 | 横浜市体操協会 | 横浜市ゲートボール連合 |
| 横浜市テニス協会 | 横浜市ホッケー協会 | NPO 横浜市ボート協会 |
| NPO 横浜ソフトテニス協会 | 横浜市バドミントン協会 | 横浜市太極拳協会 |
| 一般社団法人横浜水泳協会 | 横浜バスケットボール協会 | 横浜市少林寺拳法連盟 |
| 横浜市卓球協会 | NPO 横浜市馬術協会 | 横浜市ゴルフ協会 |
| 横浜市弓道協会 | 横浜市剣道連盟 | 横浜アイスホッケー連盟 |
| 一般社団法人横浜サッカー協会 | 横浜市アマチュアボクシング協会 | 横浜市インディアカ協会 |
| 横浜市ラグビーフットボール協会 | 横浜市レスリング協会 | 横浜市綱引連盟 |
| 横浜市陸上競技協会 | 横浜市クレール射撃協会 | 横浜市ダンススポーツ連盟 |
| 横浜市相撲連盟 | 横浜市ライフル射撃協会 | 横浜市合気道連盟 |
| 横浜ハンドボール協会 | 横浜市ウェイトリフティング協会 | 横浜市スポーツチャンバラ協会 |
| 横浜市山岳協会 | 横浜市なぎなた連盟 | 横浜市日本拳法連盟 |
| 横浜スキー協会 | 横浜市アーチェリー協会 | 横浜市バトン協会 |
| 横浜バレーボール協会 | 横浜市ボウリング協会 | 横浜市トリアスロン協会 |
| 横浜市柔道協会 | 横浜市空手道連盟 | 横浜市パワーリフティング協会 |
| 横浜市ヨット連盟 | 横浜アメリカンフットボール協会 | 横浜市グラウンド・ゴルフ協会 |
| 横浜市ターゲット・ハードゴルフ協会 | | |

◆学校団体(3 団体)

| | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 横浜市立小学校体育研究会 | 横浜市立中学校体育連盟 | 横浜地区高等学校体育連盟 |
|--------------|-------------|--------------|

◆地域団体(18 団体)

| | | |
|----------|-----------|---------|
| 鶴見区体育協会 | 保土ヶ谷区体育協会 | 青葉区体育協会 |
| 神奈川区体育協会 | 旭区体育協会 | 都筑区体育協会 |
| 西区体育協会 | 磯子区体育協会 | 戸塚区体育協会 |
| 中区体育協会 | 金沢区体育協会 | 栄区体育協会 |
| 南区体育協会 | 港北区体育協会 | 泉区体育協会 |
| 港南区体育協会 | 緑区体育協会 | 瀬谷区体育協会 |

◆体育団体(1 団体)

| | | |
|-----------------------|-----------------|--------------------------|
| 横浜市レクリエーション連合 (構成団体) | | |
| ・横浜市フォークダンス協会 | ・日本ターゲットボール協会 | ・横浜市グループワーク・トレーニング協会 |
| ・横浜市民踊協会 | ・横浜市ペタンク協会 | ・横浜市スクエアダンス連絡協議会 |
| ・横浜レディース卓球連盟 | ・横浜レク・フラダンス市民の会 | ・よこはまレクリエーションの会 |
| ・横浜市オリエンテERINGリーダークラブ | ・横浜市健康太極拳の会 | ・横浜市レクハーモニカの会明日葉 |
| ・横浜市レクリーダー協議会 | ・日本サーチウオーク協会 | ・横浜市シルバー体操・レクリエーション指導者連盟 |



YOKOHAMA 2018
MARATHON 横浜マラソン 



公益財団法人横浜市体育協会
〒231-0015
横浜市中区尾上町6丁目81番地
ニッセイ横浜尾上町ビル内
TEL 045-640-0011(代表)
FAX 045-640-0021